

弘道館



沿革

旧水戸藩の藩校である弘道館は、徳川斉昭が推進した藩政改革の重要施策の一つとして開設されました。

弘道館建学の精神は、天保9年(1838)に斉昭の名で公表された「弘道館記」に「神儒一致」「忠孝一致」「文武一致」「学問事業一致」「治教一致」の5項目として示されています。弘道館は、天保12年(1841)8月1日に仮開館式が挙行され、さらに15年余の年月を要し、安政4年(1857)5月9日に本開館式の日を迎えました。

弘道館では藩士とその子弟が学び、入学年齢は15歳で卒業はありませんでした。学問と武芸の両方が重視され、学問では儒学・礼儀・歴史・天文・数学・地図・和歌・音楽など、武芸では剣術・槍・柔術・兵学・鉄砲・馬術・水泳など多様な科目が教えられていました。

その後、幕末の動乱期を経て、明治5年(1872)の「学制」発布により弘道館は閉鎖され、県庁舎や学校の仮校舎として使用されました。幾度の戦火を免れた正門、正庁及び至善堂は、昭和39年(1964)に国の重要文化財に指定され、往時の姿を今に伝えています。



藩校として全国一の規模をほこる敷地内には、正庁・至善堂を中心に学問を学ぶ文館、武術を修練する武館、医学館、天文台、馬場、訓練場などがあり、総合大学のような施設でした。また、建学の精神を表した弘道館記碑を納める八卦堂、鹿島神社、孔子廟、学生警鐘が建てられた一画は聖域とされていました。

弘道館全図

※この図面は藩校当時のものです。訓練場・馬場・医学館・文館・天文台・武館等は現在は存在していません。



正庁正席の間



正庁諸役会所



至善堂



正門の柱の弾痕



玄関前の左近の桜



扁額「遊於藝」

見所

藩校当時の建造物が現存する弘道館では、静かな館内を歩きながら水戸の学風に触れることができます。館内には、藩主が臨席して文武の大試験が行われた正庁の間や対試場、徳川慶喜が幼い頃に学び大政奉還の後に恭順謹慎生活を送った至善堂などがあります。

また、厳冬の中いち早く咲く鯉梅や斉昭が愛した幾種もの梅、鮮黄色の小花を集めてつける山茱萸、斉昭夫人ゆかりの左近の桜、夏の日差しに映える百日紅、秋に色づく伊呂波紅葉など、四季折々の美しい花や樹木と出会えます。



偕楽園 (水戸市常磐町1-3-3) 休園日なし

入園料：大人 320円 小人 160円 満70歳以上 160円
団体(20名以上) 大人 240円 小人 130円
開園時間：6:00～19:00※1 7:00～18:00※2
開園から午前9:00までは無料
常磐自動車道水戸IC(国道50号バイパス経由) 約20分
バス JR水戸駅(北口46バス乗り場) 約20分
(お問い合わせ) 偕楽園公園センター(水戸市見川1-1251)
TEL 029-244-5454 FAX 029-244-5866

好文亭

休館日：12/29～12/31
観覧料：大人 230円 小人 120円 満70歳以上 110円
団体(20名以上) 大人 170円 小人 90円
観覧時間：9:00～17:00(入館は16:45まで)※1
9:00～16:30(入館は16:15まで)※2
TEL/FAX 029-221-6570

見晴亭 (観光案内・県産品販売)

開館時間：9:00～17:00
TEL 029-306-8911 FAX 029-306-8912

弘道館 (水戸市三の丸1-6-29)

休館日：12/29～12/31
観覧料：大人 420円 小人 210円 満70歳以上 210円
団体(20名以上) 大人 320円 小人 160円
観覧時間：9:00～17:00(入館は16:45まで)※1
9:00～16:30(入館は16:15まで)※2

徒歩 JR水戸駅北口 約8分
(お問い合わせ) 弘道館事務所
TEL 029-231-4725 FAX 029-227-7584

※1 2月中旬頃～9月30日
※2 10月1日～2月中旬頃



偕楽園
ホームページ



弘道館
ホームページ

入園がスムーズに！電子チケット販売中。詳しくはHPから

〔表紙〕好文亭四季模様之図(部分) 大洗町幕末と明治の博物館寄託
弘道館鳥瞰図(部分)・徳川斉昭肖像の袴部分

2026年1月



